



JOC-MPC プレスリリース

2024年8月11日 2時30分

JOCMPC-24-023

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）

メインプレスセンター（MPC）内JOCオフィス

Tel: +33 (0)9 20 24 05 79

E-mail: pressoffice@joc.or.jp

※本リリースに記載の時間は原則としてパリ時間となります。

件名：第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)

トラック スプリント女子 3回戦

ケイリン男子1回戦

マディソン男子 決勝

標記の件について、レース結果並びに選手のコメントをお知らせ致します。

記

■日時

2024年8月10日

■会場

ヴェロドローム・ド・サン・カンタン・アン・イヴリーヌ

パリ五輪第16日（10日）、自転車競技トラック マディソン男子決勝、スプリント女子3回戦、ケイリン男子1回戦が行われた。男子マディソン（窪木一茂/今村駿介）は、終盤にかけてラップポイントを獲得するなど、一時はメダル圏内でレースを進めたが、惜しくも5位でレースを終えました。スプリント女子の佐藤水菜は、1本勝負の3回戦に敗れ、敗者復活戦に回ったが、そこでも勝ち切れずに敗退。ケイリン男子は中野慎詞が1回戦をストレートで勝ち上がり、翌日（11日）の準々決勝に進出。太田海也は、1回戦を落としたが敗者復活戦ではしっかり勝ち切って、中野とともに準々決勝に進出となりました。

窪木一茂（マディソン）のコメント

「最後の40周30周では、今村に冷静な声かけができませんでした。キツいところで踏ん張るような時にこそ「メダルいけるぞ！」と声をかけるべきでした。そこでの一声があれば僕も今



JOC-MPC プレスリリース

村も復活できて、メダルが獲れたのではないかと思います。リオ五輪の時とは比べ物にならないほど自信もありましたし、恐れるものもなくしっかり勝負ができました。以前ブノワが「日本がマディソンでメダルを獲ることは奇跡に近い」と言っていたのですが、レース前、2人でそのことを話しました。それで暫定3位になった時に「奇跡を起こしてやろう」って思いましたね。周りのサポートのおかげもあり、最高のパフォーマンスでしたし、日本の皆さんにも「日本がやるんじゃないか」と思わせることができたならすごく嬉しいです。悔いはありません。」

今村駿介（マディソン）のコメント

「前半から前にいることはできたのですが、細かなミスを僕がメインにしてみました。良い位置取りを下げてしまったことが、上位争いができなかった要因だと思います。窪木さんが仕掛けてくれるので、僕はついて行くだけでした。前の選手に食らいつくことが僕の仕事です。しかし窪木さんに頼らず、きちんと「2人1組」でレースをするという点が足りなかったなと思います。上位争いをするためにここまでやってきて、細かな技術を磨いてきました。この1日は忘れられないですし、窪木さんの背中を追って世界に肉薄することができたと思います。まだやれることはいっぱいあるなと思います。次の4年間でもっともっと力をつけて、あっと驚くような結果を残せたらと思います。」

佐藤水菜（スプリント）のコメント

「3回戦は以前にも戦ったことのある選手で、自分の修正点をしっかり前持って挑みました。でも車間を見誤ってしまい、結果的に追いつけませんでした。全体として、自分の実力通りの結果だったと思います。自分のやれることを最大限やった結果ですので、伸び代しかないと思っています。メダルを期待されるような実力を持っているとは、自分自身は思っていなかった。結果として受け止めていて、悔しい気持ちもありますが、実力を再認識した形です。そしてやはり経験が少ないので、実力以上に実戦経験を増やしていく必要があると感じました。」

中野慎詞（ケイリン）のコメント

「残り3周からどんどんレースが動いていくというのが、今大会で良く見られていました。なので、いつでも仕掛けられるよう準備して挑みました。せこいレースをしても置いていかれると思っていたので、行けるところで行くという感じでした。想定していなかった選手が動いたのですが、うまく流れに乗れたと思います。動いた選手がどのような選手で、その様子を伺いながら、しっかり自分でも仕掛けて行けたので良かったです。自分の長所はロングスプリント。「どこからでもいけるぞ」という気持ちで走っていたので、それがレース運びに繋がったのかなと思います。1回戦を突破したのは良かったです。ここがゴールではありません。明日は1本1本が重要なレースになるので、しっかり冷静にレースを見て進めたいです。」



JOC-MPC プレスリリース

太田海也（ケイリン）のコメント

「1本目は実力を発揮できない展開に入ってしまいました。自分の力を出したいところで牽制があったりして、気持ち良くないレースだったと思います。2本目までの間、気持ちを切り替えることに必死でした。敗者復活戦では、メンバーを見て実力さえ発揮できれば必ず勝ち上がれると思いました。自信がなくなるようなレースが続いてしまっていたので、自信を持って敗者復活戦に挑むよう心がけました。明日はより積極的なレースをして、メダルを目指して頑張りたいです。」

以上